

## ■ご寄附のお願い

本学の活動にご理解をいただき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### 寄附の目的

寄附金は次の目的に活用させていただきます。

- 1 教育及び研究の支援
- 2 学生の支援
- 3 国際交流の支援
- 4 地域貢献の支援
- 5 その他大学活動の支援

### 寄附金額

おいくらからでも結構です。 ※金額の目安【個人】5千円【法人・団体】5万円

### お申込み・お支払い方法

- 1 **インターネットによるお申込み**  
二次元コードの読み込み、または“https://www.spu.ac.jp/donation/”にアクセス（クレジットカード決済、コンビニ支払い、ネットバンキング（Pay-easy）決済が可能です。）
- 2 **インターネット以外のお申込み方法**  
事務局 財務担当までお問い合わせください。  
TEL 048-973-4110  
E-mail zaimu@spu.ac.jp

インターネット  
申込み



※寄附金としていただくことができるお金は、  
本学の教育研究上支障がないと認められたもの（利害関係が生じないもの）です。

### 寄附者の顕彰等

- 1 イベント案内・収支報告をさせていただきます。
- 2 ご芳名をホームページに掲載させていただきます。
- 3 ご芳名を銘板に刻み学内に掲示させていただきます。  
※ご寄附の合計額が個人10万円以上、法人・団体50万円以上の方
- 4 感謝状を贈呈させていただきます。  
※1年間のご寄附の合計額が個人100万円以上、法人・団体300万円以上の方

### 税制上の優遇措置があります

この寄附は、住民の福祉の増進に寄与するものとして、税制上の優遇措置があります。

（個人からのご寄附）

- 1 所得税  
寄附金額（総所得金額の40%が上限）から2,000円を差し引いた額が当該年の課税所得から控除されます。
- 2 住民税  
本学が、寄附をした翌年の1月1日にお住まいの県内市町村において寄附金税額控除の対象団体に指定されている場合、寄附金額（総所得金額の30%が上限）から2,000円を差し引いた額の10%が、寄附した翌年の個人住民税から控除されます。

（法人・団体からのご寄附）  
全額損金算入が可能です。

## ■活用実績

寄附金は寄附の目的に沿って、より充実した大学活動の実施のため、多岐にわたる分野で活用させていただいております。

- 2010年の法人化以降、寄附者の延べ人数が350名以上、寄附金総額は1,500万円に達しました。（※）
- 卒業生をはじめ、在学生のご家族様や地域の方々など、本学に関わる多くの方からご寄附をいただいております。
- 多額のご寄附をいただいた方を顕彰する銘板作成枚数は40枚以上になりました。  
（※）後援会・本学役員を除く。



銘板は講堂入口の壁に設置されており、多くの方にご覧いただいております。あなたの名前も銘板に刻んでみませんか？



皆さまの暖かい支援の輪が広がっています！



障害学生  
支援に関する  
研修会



学生希望  
図書  
購入



## Contents

- 02 専門職連携教育研修センターを新設しました
- 04 卒業生・修了生の活躍
- 08 懐かしの先生からのメッセージ
- 09 県大生の今
- 10 大学院の改革/理事長コラム
- 11 学部の改革/同窓会からのお知らせ

特集  
専門職連携教育  
研修センター  
新設!

# 専門職連携教育 研修センター

IPEセンターを新設しました

本学は開学以来、全国に先駆けて

「専門職連携教育(IPE: Interprofessional Education)」を推進してきました。

そして開学25周年を迎えた2024年、更なるIPEの推進、地域における専門職連携の強化を図るため、

専門職連携教育研修センター (IPEセンター) を新設しました。

そこで今回は、本学におけるIPEの歴史を簡単に振り返るとともに、新設のIPEセンターを紹介します。

## 本学における専門職連携教育の今までとこれから

本学が開学した1999年、本学における最初のIPEに関する科目として「ヒューマンケア論」と「フィールド体験学習」が開講されました。いずれも1年次生が履修する科目で、まず前期の「ヒューマンケア論」で対人援助の基本と各学科(当時は4学科体制)の専門性の理解を深め、それを基盤として後期の「フィールド体験学習」では、4学科の学生が混在するグループごとに病院や施設に赴き、実践活動を体験して人間理解を深め、保健医療福祉の課題と専門職の役割を考えるという基礎的なプログラムです。これらの科目は2024年現在においても一部科目名を変えて開講されており、IPEの礎は開学当初から現在まで連続と続いていることがうかがえます。

続いて2006年のカリキュラム改正により「IP演習」が新たに開講されました。これは4年次生の履修科目として位置づけられ、大学4年間で学んだ専門知識を活用してチームワークを行い、連携・協働した援助活動を学ぶことがねらいとされました。最初の3年間は試行として、自発的に参加を希望した学生約20名が5つほどの施設で実習を行っていましたが、2009年の正式開講時には全4年次生約400名が80程度

の施設に赴く、まさにIPEの集大成といえる大規模な実習となりました。なお本科目の開講に際し、2005年、本学が体系的に行ってきた「連携と統合」教育が文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」に、さらに本科目の計画が「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に採択されており、本学の教育がいろいろ認知されるきっかけでもありました。

2012年からはさらに多くの他分野専門職と連携、協働して課題を発見し、解決方法を考える人材を育成するため、埼玉医科大学(医)、城西大学(薬・栄養)、日本工業大学(建築)と共同で「彩の国連携力育成プロジェクト(saipe)」をスタートしました。専門の異なる4大学の学生が同じ場所で共に学び、同じチームを組んで実習を行うことは、IPEの大きな広がりをもたらしました。本プロジェクトは

文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」に採択され、事業評価において最高のS評価を獲得しました。補助事業としては2016年度までの5年間で終了しましたが、以降も継続してプロジェクトを進められるよう、4大学及びステークホルダーである埼玉県との5者による協定を締結し、現在も継続して実施されています。本プロジェクトを含めた2012年からの新カリキュラムより、現在も開講されているIPE科目「ヒューマンケア論」「ヒューマンケア体験実習」「IPW(専門職連携実践: Interprofessional Work)論」「IPW演習」「IPW実習」が揃うこととなりました。

このとおり、本学のIPEは様々な転換点を経て深化してまいりました。この度設立したIPEセンターもその1つの転換点として、本学のみならず地域における専門職連携の発展のため様々な活動を行ってまいります。また現職者向けに「専門職連携を学ぶための講座」を用意しており、2023年度から履修証明プログラムとして開講しています。本学のIPEを学んだ卒業生・修了生の皆様はもちろん、学んだことのない専門職の皆様もぜひ、受講をお待ちしています。



利用者へのヒアリングの様子 (IPW実習)



学生同士のディスカッション (IP演習)

学長だより

## SPUフラッグシップ: IPEセンター



学長 星 文彦

2007年に埼玉立大学に着任。理学療法学科長や地域産学連携センター所長を歴任し、2021年から現職

2024年4月、IPEセンターを新設しました。本学は開学以来、IPEを教育の基本方針として、学部教育から大学院教育、そして専門職実践者教育まで系統化したIPEプログラムを構築してきました。開学25周年の節目に、IPEセンターを設置できたことは、大変意義のあることと思います。IPEセンターは、本学が貫いてきた「連携と統合」を目指す教学の証、象徴であり、本学のプレゼンスをさらに高めるフラッグシップであると自負しています。

卒業生の皆さんは、各職場で、医療福祉のみならず、教育や行政、一般の職場においても連携の必要性や重要性を感じていることと思います。そして、本学で培った連携教育の学修成果が皆さんの現在の職場での活躍の礎になっていることと思います。

今、社会は多様性を尊重する一方、自己中心主義や自国優先主義による混乱も起きています。相互尊重、相互理解、相互作用を基盤とする連携の価値観を備えた皆さんの活躍が豊かで平和な社会づくりに結びつくことを信じています。

## 学内外のIPEを充実させ、卒業生のIPWを支える新たな拠点 -IPEセンター-

本学では1999年の開学当初より専門分野をこえて「ケアの質の向上」を実現する専門職連携教育 (IPE) に力を入れてきました。そこでは、専門的な知識・技術の修得のみならず、他の分野や専門職等と連携できる能力、すなわち“連携力”を有する人材を育成するとともに、IPE研修等を通じ、卒業生を含む保健医療福祉施設等の現職者の“連携力”の涵養にも取り組んできました。

このような経験を踏まえて、2024年度にスタートしたIPEセンターでは、学部や大学院における効果的・体系的なIPEプログラムの充実、実践現場の連携ニーズに対応しながら現場とともに取り組むIPEの展開、IPEを通じた実習施設との連携強化、現職者を対象としたIPE研修機会の提供による“連携力”を備えた人材育成、そしてIPEやIPWの普及とさらなる探求などの多様な事業に取り組む予定です。

IPEセンターは、本学の教職員のみならず、学生、卒業生、現場専門職の方々等とともにこれまで積み上げてきたIPEの集大成であり、将来に向けさらなる「ケアの質の向上」を確実にしていくための新たな出発点として、皆様の身近にあるセンターを目指したいと考えております。

IPEセンターの活動にご期待いただくとともに、“ともに取り組む”ご支援とご協力をお願い申し上げます。



専門職連携教育研修センター長 田口 孝行

### IPEセンターの主な取り組み

本学学生に向けたIPEの充実

- 学部・大学院のIPEの支援
- 本学教員や実習受け入れ施設職員向けの教育能力開発 (ファシリテータ研修等)

保健医療福祉施設等との連携強化

- IPE/IPW推進コンソーシアムの構築 (県内の医療機関、福祉施設等との連携体制)
- IPEアドバイザー会議の設置 (外部のIPE有識者による本学内外の関係者への助言)

現場で働く専門職等に対する研修の充実

- 「専門職連携を学ぶ講座」の充実 (履修証明プログラム等)
- 彩の国連携力育成プロジェクト (saipe) の推進 (埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学、埼玉県との連携強化)

IPE/IPWの普及啓発とさらなる探求

## 専門職連携を学ぶ講座のご案内

埼玉立大学では、地域包括ケアシステム等で改めて専門職連携の必要性が高まってきたことを受け、2014年度に社会人を対象に専門職連携を学ぶ講座を開講いたしました。毎年ブラッシュアップを行い、2023年度からは“社会人にやさしく”をモットーに、研修の名称を見ただけで何が学べるかを理解できて、受講者のニーズに応じて、専門職連携に必要な知識や実践方法などが養えるよう、5つの研修に編成しました。本学の専門職連携教育・研究成果を活かして体系的な知識・技術等の修得をめざす本講座は、「履修証明プログラム」(文部科学省)としても認められています。一定の条件を満たすと、履修証明書が発行されます。



研修の様子

本講座の2024年度チームビルディング研修は、「チームビルディングの考え方、チーム活性化に必要なコミュニケーションスキルの習得」「自身とチームを俯瞰する力 (リフレクション)、組織づくりの足がかりとなる力を養う」などを目標に開講しました。受講者からは「リフレクションが多く、いろんな職種の見聞が聞けてよかった」、「明日の仕事に活用できる」などの感想をいただき、満足度の高い研修となったようです。2025年度以降も見直しを行い、卒業生の皆様にとっても新たな知見の獲得、学び直しになるような講座を開講していく予定です。興味・関心のある方は本学のホームページをご覧ください。二次元コードからメンバーリストへご登録ください。

メンバーリスト登録フォーム



### 2024年度専門職連携を学ぶ講座一覧

チームビルディング研修 (2日間)	多職種チームによる実践事例研修 (3日間)
ファシリテータ研修 (3日間)	多職種チームによる実地実習 (3日間)
IPWを促進するF-SOAI研修 (3日間)	

※2024年度の講座の受付は全て終了しています

いまだこでなにしてる？

# 卒業生の活躍



利用者さん・ご家族がその人らしくいられるよう、良いケアが実施できるようにしていきたい

01  
2012年度卒業  
保健医療福祉学部  
看護学科  
**村山 奈津季さん**  
MURAYAMA Natsuki

**Profile**  
大学卒業後は、神奈川県立こども医療センターに入職。乳幼児外科病棟で5年間勤務後、一度じっくりとこれまでの経験に向き合い小児看護を学び直したいと思ひ大学院に進学。修了後は、子どもたちの退院後の生活や大人への過程、その後の人生の場で考えを深めたく現在の職場に入職。訪問看護師5年目となった。

**勤務先**  
ウィル訪問看護ステーション  
江東サテライト

**現在の仕事内容**

- 慢性疾患、がん、難病、小児、精神科領域等の訪問看護業務、オンコール対応
- 特別支援学校通学支援バスにて医療的ケアを必要とする児童生徒への同乗
- 事務所運営業務 など

現在、東京都江東区の訪問看護ステーションで働いています。毎日3~6件程のご自宅に回り、様々な年齢や疾患の方へ看護を行っています。5年目の付き合いになった方もいれば、看取りを見届けて退院され1週間に満たない関わりの場合もあります。また、ご自身・ご家族の力がつくことで状態が安定して、訪問看護を卒業できる方もいるので、ご本人・家族と一緒に卒業を目指すように努めています。在宅の場は地域保健福祉との連携なく成り立たず、県大が大事にしている“多職種連携と協働”ができるに越したことはないと感じております。

私は、小児科の看護師になりたくて看護師を目指すようになりました。学部3年生の初めての小児看護実習の最終日、臨床実習指導者の方が日々のコメントと実習風景の写真をラミネートしてくださいました。小児看

護に携わるスタートだったのでとても嬉しく今でも大切に保管しています。その後、総合実習、卒業研究と小児領域で先生方にやりたかった事を学ばせていただき、将来の夢だった小児科の看護師になることができました。

病棟での仕事はやりがいもあり、病院で働いていくことしか考えていませんでした。一方で、4~5年目あたりで自分の看護実践にもどかしさや後悔を感じることも増えていきました。そんな時に、先生との連絡で大学院という選択肢をいただき進学を決めました。仕事を辞めて進学したので、社会から孤立したような感覚もありましたが、改めて看護に向き合い学び、研究を通して一つのテーマを深めた時間はとても貴重な時間でした。修士課程での学びを経て、実践を深めることの意義を感じ、職場でも事例検討の機会

を大切にするようにしています。実際、事務所の看護・リハスタッフで話し合った内容を契機に、普段訪問しているスタッフが新たな展開を生んでくれた例がありました。数年前は気力なく寝たきりだった方が、今では趣味を仕事にしようと外出もして活き活き生活するようになったのです。直接的なケア実施者でなくとも、考えを深めるという手段で、チームで生み出す結果に寄与できることもあるのだと、最近実感するようになりました。また、以前よりも、事例検討のカンファレンスや後輩・学生指導が楽しく感じています。

今後も、小児看護分野を研鑽しながら、子どもから大人まで、利用者さん・ご家族がその人らしくいられるよう、スタッフ同士で考えを深め良いケアが実施できるようにしていきたいです。

PHOTO Gallery



夏場の訪問はUVカットパーカーを着て、サングラスをかけて、見た目的にはだいぶ怪しくなります。日焼け対策に必死です…!



子どもたちや親御さんが下さったお手紙です。感動しつつ、ほっこりしつつ、元気をもらっています。



大学同期とハイキングに出かけた際の写真です。たまに会える機会が癒しになっています。

いまだこでなにしてる？

# 卒業生の活躍



様々な活動に参加することで、自分のやりたいことが明確になりました

02  
2015年度卒業  
保健医療福祉学部  
社会福祉学科  
**小川 恭平さん**  
OGAWA Kyohei

**Profile**  
大学卒業後、医療機関にて相談支援業務に従事。復職支援機関の立ち上げを担い、サービス・支援体制の構築方法、復職支援のノウハウを身に付ける。2022年株式会社リウエルに入社。現在はサービス責任者として支援業務にあたっている。大学在学中は学生ボランティア支援サークルSolutionsを立ち上げてボランティア活動や他大学との交流を行っていた。

**勤務先**  
株式会社リウエル

**現在の仕事内容**

- 利用者へのプログラム（認知行動療法、SST等）の実施
- 個別支援計画の策定、ケース会議
- 新しいサービスの企画立案 など

大学卒業後、精神科救急の現場で多くの患者様をサポートしてきました。その中で、様々なメンタルヘルス問題に直面、精神医療領域、産業保健領域におけるメンタルヘルス不調の予防、再発防止等に課題を感じました。そこで“再発率0%を実現するサービスの提供”、“働きたい人が健全に働ける世界への貢献”を理念として掲げるリウエルと出会い、自らが行いたい新しいサービスの創造に最も近いと感じ現在に至ります。リウエルでは働く人が健全に働くために、個人及び企業にリワーク支援事業、復職支援事業を提供し、企業の利益向上と働く人の幸福に貢献することを活動理念としています。

現在は

- ・個人へのサービスとして施設でのリワーク支援
- ・企業へのサービスとしてオンラインリワーク支援を実施しています。その全体のプログラム、

支援の部分に関しての中心となり、プログラム作成、ブラッシュアップなどを行っています。また、メンタルヘルス不調予防に焦点を当てた新しいサービスなどにも着手していくべく、日々自己研鑽、情報収集などを行っています。

大学時代は東日本大震災のボランティアを通じてボランティアのサークルを立ち上げたり、楽しく過ごしていたことを今でも思い出します。そこからスタートし、社会人になってからもDPAT(災害派遣精神医療チーム)に所属する機会があったり、その経験が現在の自分にも活かしていると感じています。様々な活動に参加したことによって、自分のやりたいことがいち早く明確になり、さらに実習の中で感じたことが卒業後の就職先になり、そこで経験したことからメンタルヘルス上の問題に目を向け、医療機関ではできない“メ

ンタルヘルス不調予防”に従事できることを誇りに思っています。

プライベートではあまり大学時代に行わなかったスノーボード、音楽フェスにはまっており、休みの日はほとんど家にいません。平日はしっかり仕事、休日はしっかり楽しむというメリハリのあった生活をする中で日々の業務や自身のメンタルヘルス上の健康維持にもつながっています。自己研鑽という意味では大学時代に習わなかったマーケティングやサービス設計などの手法を学び、株式会社でもあるので営業や商談などの病院やクリニックではできない経験をさせていただいています。多くの人にいいサービスを届けたいという想いのもと、今後も学びを深めていきたいと思っています。

PHOTO Gallery



上質で明るいオフィスのような空間で復職のサポートを行っています。利用者の訓練環境と復帰後の就労環境のギャップを少なくするために、スタッフの日々のモチベーションもあがります!



大学在学中は2回しか行かなかったスノーボード、今ではシーズン20回は行くほど大好きに。リゾートバイトでスノーボードの特訓をして、上達しました!



在学中は好きなアーティストのライブに1回行ったくらいでしたが、今では月に1回なにかしらライブや音楽フェスに行くようになりました。非日常の体験がやめられず、良い休日の過ごし方になっています。

いまだどこで  
なにしている?  
**卒業生の活躍**



喜んでる本人やご家族の姿を見ると、  
自分も嬉しくなり、  
やりがいを感じる事ができます

03  
2013年度卒業  
保健医療福祉学部  
健康開発学科口腔保健科学専攻  
**石塚 あかねさん**  
ISHIZUKA Akane

**Profile**  
大学卒業後、実習先であった埼玉県総合リハビリテーションセンターに就職し、今年で11年目となる。小児から高齢者までの有病者・障害者を対象とした歯科に携わる。これまでに、障害者歯科認定歯科衛生士、歯科麻酔認定歯科衛生士、摂食嚥下リハビリテーション認定士を取得した。

**勤務先**  
埼玉県総合リハビリテーションセンター

**現在の仕事内容**

- 障害者および有病者に対する歯科診療補助、歯科予防処置、歯科保健指導
- 静脈麻酔および全身麻酔下歯科治療の介助
- 発達障害者等に対する歯科トレーニング など

私は大学卒業後、現職場である埼玉県総合リハビリテーションセンターに入職しました。当センター歯科診療科では障害者歯科を専門としており、一般の歯医者で対応が困難な方を対象に治療を行っています。障害者歯科といっても、治療の内容は一般的な歯科治療（虫歯や歯周病の治療など）とほとんど同じです。しかし、患者さんが治療を拒否してしまうなど、障害や病気により対応が困難な方に対し、対応を工夫しながら診療を進めていく必要があります。例えば、歯科治療に対して強い恐怖心がある患者さんには受診に慣れるまでトレーニング期間を設けたり、治療時には静脈内鎮静法や全身麻酔法を適用することもあります。患者さんが継続して通院し、治療や検診が受けられるよう支援をしています。結果が表れるには年単位を要する場合がありますが、歯科受診が可能と

なり喜んでる本人やご家族の姿を見ると、自分も嬉しくなり、やりがいを感じる事ができます。

そもそも、障害者歯科に興味を持ったのは大学時代の臨地臨床実習がきっかけでした。病院やクリニック等様々な実習先を訪れた中で、現職場で実習中、診療室にも入れず奇声を上げてしまう方や、診療を拒否して暴れてしまう方が多く、歯科スタッフの方が時間をかけて受け入れようと努力する姿がとても印象に残りました。それと同時に、障害がある方にとって歯科受診はとてもハードルが高いことを実感し、私も歯科衛生士として役に立ちたいと思うようになりました。

また、IPW演習等を通して他学科の方と学ぶ機会が多かったことや、歯科以外の臨床実習に行ったことも影響しています。看護や福祉など幅広い視点で患者さんや利用者

さんを見て考えることができ、自分がやりたいことをより明確にできたと感じています。当時は、正直つらいと感じてしまう実習もありましたが、今では経験できて良かったと思っています。

障害者歯科に関わって10年が経過し、現在は指導歯科衛生士を目指しているところです。毎年、埼玉県立大学の学生を含め約50人の実習生を受け入れています。未来の歯科衛生士になる皆さんに、もっと障害者歯科という分野を身近に感じてもらえるよう指導をしていきたいと思っています。「障害がある」というだけで、対応できない歯科診療所がまだまだたくさんあります。少しでも多くの場所で、障害者の方々に歯科が介入できるようになること、支援ができるようになることを願って、今後も指導できるよう成長していきたいと思っています。

**PHOTO Gallery**



4年間一緒に過ごした友達。今でも連絡を取ったり旅行に行ったりできる友達があります。何でも共有できる大切な友達です。

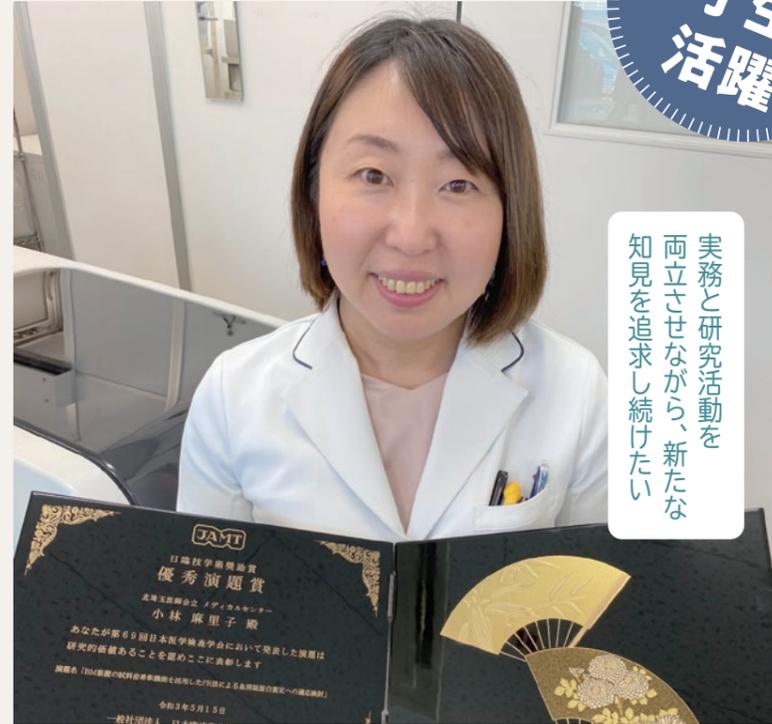


苦しい歯医者に慣れる練習中。最初は怖がって座ることもできなかったけれど、できることがたくさん増えてきました。



旅行が好きで休暇をとって行くことも。最近では初めて一人で韓国に行きました。

いまだどこで  
なにしている?  
**修了生の活躍**



実務と研究活動を  
両立させながら、新たな  
知見を追求し続けたい

04  
2021年度修了  
保健医療福祉学  
保健医療福祉学  
博士前期課程 健康福祉科学専修  
**小林 麻里子さん**  
KOBAYASHI Mariko

**Profile**  
臨床検査技師免許取得後、現職場に勤務しながら一念発起し博士前期課程へ進学。修了後は、臨床化学検査研究班班員を経た後、理事へ就任。現在はデータベースソフトAccess習得に奮闘中。趣味は旅行、博物館めぐり。推しはカピバラとエジプト神メジェド様。

**勤務先**  
北埼玉医師会立メディカルセンター

**現在の仕事内容**

- 検査センターで生化学検査を中心とした検体検査
- 地域の幼稚園や小中学校の学校検尿 など

私が勤める北埼玉医師会立メディカルセンターは、埼玉県加須市と羽生市に開院する先生方によって設立された、医師会の中にある検査センターです。大学病院のような研究重視の機関ではなく、地域に密着した検査センターで、その中で自分なりに研鑽を積みながら、楽しく仕事をしていました。当初、大学院への進学は考えていませんでしたが、他施設の技師との交流を通じて、挑戦してみたいんじゃないかと思うようになり、博士前期課程に進学しました。

コロナ禍での進学だったため入学式はなく、少し寂しい反面、ほっとした気持ちになったことを覚えています。2年間の授業のほとんどはWebで行われ、仕事や家庭がある私にとって、職場や家族に大きな負担をかけることなく学べる環境でした。大学院での学びは、研修会だけでは補えない研究に特化した

視点や考え方を身につける貴重な機会となり、「職場の規模に関係なく研究はできる」という自信を養うことができました。

私が担当している生化学検査は自動化が進んでいる分野で、検査結果(数値)にだけ目がいきがちですが、結果を導く過程では様々な化学反応が関与しています。ときには異常な反応がみられ、その反応が患者様の病態を示すこともあります。その説明を医師にする際には、印象ではなく具体的なデータで伝えることが求められます。大学で学んだ研究手法を活用し、異常反応を明らかにし、その成果を臨床側に提供できたとき、臨床に貢献できていると感じる瞬間があります。疑問に対して丁寧に向き合い、説明していくことの重要性を修了後も感じ続けています。

修了後は、学会で恩師に会うことも楽しみ

の一つとなっており、当時の研究を楽しむ気持ちを思い出しながら、現在の課題に対するヒントをいただく貴重な時間を過ごしています。

さらに学術活動にも積極的に参加し、得られた知見を職場に持ち帰り、臨床に応用することを心掛けています。また、学校検尿では行政や養護の先生方と連携し、専門知識を活かしながらより良い運用方法を構築しています。こうした活動を通じて、地域社会への貢献を実感しています。

今後もメディカルセンターでの実務と研究活動を両立させながら、新たな知見を追求し続けたいと考えています。そして、フレッシュな気持ちで研究に取り組み、臨床現場での課題解決に役立てることを目指します。これからも学び続け、地域医療の発展に寄与できるよう努めてまいります。

**PHOTO Gallery**



家族旅行では久しぶりに遠出し近畿地方を観光。ピカピカの金閣寺。



相棒の生化学自動分析装置。様々な情報を解析することで測定値の異常反応に気付くことができます。



埼玉県立大学 大学院修了式  
コロナ禍の入学でしたが、無事に修了できたことに胸がいっぱいです。



## 卒業生・修了生の皆さまへのメッセージ

卒業生の皆さん、お久しぶりです。私たち3人から、思い出を振り返りながら、卒業生の皆さんに向けてメッセージを送ります。

### 教員生活の思い出

**鈴木** 私は開学2年目にこの大学に着任しまして、3年生から看護の実習が始まることとなったため、私も病院へ指導に行くようになりました。最初の頃は、県内で初めての看護系大学ということもあり、4年間でどのように看護師を育てていくのかを理解していただくのがなかなか難しく、非常に苦労しながら説明した思い出があります。最近、実習先の指導者が本学の卒業生だという施設も多くなり、非常に頼もしく思っています。また、病院に向かう途中で卒業生に声をかけてもらえたりもします。県立大学も25年が経ち、県内あちこちの病院の卒業生にお世話になっているなど感じる今日この頃です。

**久保田** ものすごく優秀な学生が多かったのですが、私が印象に残っているのは、ある日、3限が始まって30分ほどしたときに元気に学生が教室に入ってきて、「先生、遅刻しました!」と。私も驚きながら「もう午後だけ…」と聞くと、「二度寝しちゃいました!」と言われ、あのときは他の学生と皆でずっこけてしまいました。また、ある日の授業の後半に質問があるか聞いた際、「先生、愛と恋の違いについて教えてください!」と聞かれたときは、さすがに何と答えていいか困ってしまいました。

**河村** ソーシャルワーク実習や精神保健福祉援助

実習が思い出に残っています。特に学生が初めて長い時間を施設で過ごす実習で、実習後の振り返りのときに、学生から「利用者さんに助けられました」という声を多く聞いたことを嬉しくて覚えています。「誰かの役に立とう、お世話をしよう」と思って現場に赴いたところ、学生自身が利用者さんたちに助けられていることに気付く。専門職の卵として、ケアの双方向性という本質に気付けたことが、とても素晴らしいと思いました。

### 大学の「これ」を見に来て!

**鈴木** 20周年記念として植樹された河津桜です。大学の中は自然がいっぱいありますが、お花が咲く木々は意外に多くないので、いい季節に来ていただけたら見事な濃いピンクの河津桜をご覧いただけると幸いです。

**久保田** 3Dプリンターをたくさん購入したので、学生が在学中に自助具・補助具を作れるようにしたいと思っています。また、アントレプレナーシップ(起業家精神)教育を通じて、社会で困っている方に対して様々な提案ができる学生を育てていきたいと考えています。ぜひ作業療法学科に遊びに来て、色々体験してみてください。

**河村** 社会福祉子ども学科では一昨年から毎年、清透祭の日程に合わせて学科単位のホームカミングデーを開催しています。昨年は短大時代の保育

学科を卒業された方が参加し、世代を超えた同窓生同士の交流がありました。多くの卒業生のご参加をお待ちしております。

### 卒業生・修了生の皆さまへのメッセージ

**鈴木** 卒業生の皆さんのことを色々知ると、その度に非常に刺激を受けています。様々な活躍をされている方やお仕事を休まれている方もいると思いますが、「今度こんなことがやりたいんだ!」とか、思い立ったらぜひ大学の方へお知らせいただけたら嬉しいです。

**久保田** 現在、生成AIを使った作業療法の可能性について、学生と一緒に研究しています。人が人を診る職業である作業療法はAIに取って代わられることはありませんが、どのように活用してよりよい作業療法をつくっていくのか、現場で活躍している皆さんのアイデアも含めて、皆で考えていきたいと思っています。ぜひ、卒業生の皆さんも、大学に遊びに来てください。

**河村** 卒業生の皆さんが学び、仕事として選んだ分野、保健医療福祉の分野というのは、この人間社会にとっては、なくてはならない領域だと思います。楽しいことや嬉しいことばかりではなく、大変なことも多い日々だと思いますが、誇りを持って進んでいてください。そして、母校の仲間を思い出したときは、お誘い合わせてキャンパスにお越しください。



対面授業や実習、サークル活動なども盛んに行われ、学内はほとんどコロナ禍前と変わらない様子になりました。学生たちも勉学に励むとともに、同級生や先輩・後輩、近隣の方々と触れ合いながら楽しく大学生生活を送っています。

### 学生生活編



清透祭 (2023/10/28,29)  
4年ぶりに調理を伴う屋台も出店。ご来場の方々と楽しい時間を共有することができました。

ジュネーブ国際機関スタディツアー (2024/3/1~3/10)  
スイス・ジュネーブに本部を置く国際機関を訪問。現場で働く方々の声を聞き、視野が広がりました。



埼玉県知事との意見交換会 (2024/2/15)  
社会課題の解決に取り組むゼミやサークルが活動内容を発表。大野知事と活発な意見交換を行いました。



サークル活動  
40以上のサークルが活動中。大学祭だけでなく、地域のイベントや夏祭り等、学外でも積極的に活動しています。

### 授業編



演習やグループワークなどを通じて、技術だけでなく、人と向き合うことの大切さも学んでいます。



### 今回お話を伺った先生方



**鈴木 玲子 教授**  
看護学科  
2000年着任。専門は成人看護学・看護技術教育・看護教育手法



**久保田 富夫 教授**  
作業療法学科/学科長  
1999年着任。専門は身体機能作業療法学・老年期作業療法学・睡眠学



**河村 ちひろ 教授**  
社会福祉子ども学科/学科長兼専攻長  
2008年着任。専門は障害者保健福祉・ソーシャルワーク



# 大学院の改革 を行います

他にも、大学院の定員増や養護教諭専修免許状の取得などの改革を行います。詳しくは本学HPをご覧ください。



## 「保健医療福祉政策プログラム」を開始します (履修証明プログラム)

本学大学院では、2025年4月から「保健医療福祉政策プログラム」を開始します。現在、少子高齢化が進み、財政制約が強まる中で、自治体や保健医療福祉の関係機関では、地域の実情の把握、医療費・介護費の分析等を適切に行い、医療・介護保険の安定的運営や地域包括ケアシステムの構築といった課題に効果的・効率的に取り組んでいくことが求められています。このためには、保健医療福祉の計画や事業の企画立案に必要とされる実践的な理論、知識、手法等を修得した人材を育成することが必要です。そこで、本学大学院では、県内の自治体、保健医療福祉の関係機関等を支援する観点から、それらの職員等を対象とする履修証明プログラムを開始します。プログラムは、例えば、現場で直面する次のような課題に対応します。

- コンサルが言っていることが正しいのかわからない。
- 統計分析の方法や結果の解釈の仕方が難しい。
- データヘルスにどのように取り組んだらいいかわからない。
- 事業計画の評価をどのように示したらよいか迷っている。



### 保健医療福祉政策プログラムの概要

対象者	保健医療福祉の政策・計画・事業の立案や実務に従事する方10名程度 (例) 都道府県・市町村関係者(保健師、一般行政職、福祉職、栄養士、薬剤師等)、医療保険者・医療機関・福祉事業所・企業等の職員など
履修・修了	2年以内に5科目(150時間)以上を履修。プログラム修了者には、学長名の履修証明書を交付
履修できる科目	健康福祉社会調査論、定性的研究、統計分析、データヘルス、政策評価論、地域課題研究、その他の様々な科目
授業の方法	授業は、夜間に原則オンラインで実施
出願・選考	出願時期は2025年1月。出願書類は受講願書、履歴書、受講理由書等。選考は書類審査で実施
受講料	10万円程度

※1: プログラム履修者は大学院に正規に入学するのではなく、科目等履修生となります。

### 科目の例

データヘルス	保健・医療・介護のビッグデータの利活用の方法と課題を学ぶ ※データヘルスの概要、自治体でのデータ活用、医療データの活用、健康経営におけるデータ活用等
政策評価論	公共政策の立案と評価の方法を学ぶ ※政策評価の意義・制度、政策・計画立案の方法・プロセス、評価の方法等
地域課題研究	教員の助言・指導のもと、受講生が勤務地、組織等の現状の把握や課題解決の方向性を検討 ワークショップ形式で検討結果を発表し、議論する

※2: プログラム構成科目は大学院の正規科目であり、履修した科目については、プログラム履修者が大学院に正規に入学した場合、単位として認定されます。

理事長  
コラム

## 社会に貢献する 卒業生・修了生を応援します



たなか しげる  
理事長 田中 滋

公立大学法人埼玉県立大学理事長/慶應義塾大学名誉教授  
現在務める主な公職は、医療介護総合確保促進会議議長、  
協会けんぽ運営委員長など

本学の卒業生・修了生のうち、大きな割合が保健・医療・福祉分野で活躍しています。そこで、この分野の成長を捉えておきましょう。埼玉県立大学が創設された頃の医療費総額はおよそ30兆円、介護費は3兆円でした。両方の金額は、統計が発表されている2022年までに、医療が46兆円、介護が11兆円と、大きな増加を遂げてきました。同じ期間に日本の名目GDPはたった5%増えただけなのに比べると、著しい発展ぶりが分かりますね。

もう一点、保健・医療・福祉分野が一般の経済部門と違う点は、利用者が負担する割合の低さです。飲食店でも衣類購入でも、ほとんどの場合利用者側が費用を支払います。ところが医療費の患者負担はマクロの数値で見ると約12%、介護の利用者負担は7.5%にとどまります。残りは被保険者と雇用主が拠出する保険料と、政府支出(公費)を財源として、医療機関や介護事業者を支払われています。

保健・医療・福祉分野が社会を支える機能の大ききゆえに、利用者以外が負担する税金や保険料によって、皆で支えているのです。つまり、この分野に従事するとは、すなわち社会に貢献していると考えてよい。われわれ教職員は、そうした皆さんをいつも応援しています。

# 学部の改革 を行います

## 健康行動科学専攻は、 「健康情報学専攻」として再始動します

### 変わること、変わらないこと

2006年度に開設した健康開発学専攻「健康行動科学専攻」は、第20期生が入学する2025年度から「健康情報学専攻」に専攻名を変更します。健康行動科学専攻のカリキュラムには地域での健康調査やデータ分析、健康情報提供の資料制作など、パソコンを使う科目が多くありますが、保健医療福祉領域でもDX化が急速に進んでいることからITの基礎を学ぶ情報系科目を新たに設置し、高度化・複雑化する保健医療福祉の理解とデータ分析力をより一層深められるよう「健康情報学専攻」として再始動することになりました。

専攻名は変わりますが、本専攻の理念である生命科学(身体の構造や健康の基礎知識を学ぶ)、社会科学(客観的な思考力とデータ分析力で健康を多角的に捉える)、情報科学(質の高い情報の収集・分析・提供)の3領域から広く学んで、人々と社会の健康に寄与するジェネラリストを養成することには変わりはありません。



卒業生を招いた授業の様子

### 多様な場で 活躍する卒業生

健康行動科学専攻ではこれまでに約700人の学生が卒業しました。卒後の進路には、公務員行政職や保健医療福祉の公的機関が多いのは一つの特徴ですが、一般企業も多いです。一見関係のなさそうな企業名でも、社会のニーズから保健医療福祉のサービスや商品を開発している企業は増えており、卒業生は県内外、国内外の様々な場で活躍しています。

卒業生のみならずには、清透祭や同窓会などで「健康情報学専攻」の後輩たちと交流を深めていただくと嬉しいです。

### 健康行動科学専攻 卒業生の主な進路

公務員・官公庁	厚生労働省関東信越厚生局、経済産業省特許庁、埼玉県、さいたま市、川崎市、川崎市、越谷市、春日部市、草加市、杉並区、中央区、足立区、大阪市、浜松市 など
公的団体	国民健康保険中央会、日本年金機構、全国健康保険協会、日本スポーツ振興センター、日本コープ共済生活協同組合連合会、日本赤十字社埼玉県支部、埼玉県立大学 など
一般企業	テルモ、エーザイ、第一三共、小林製薬、東レ・メディカル、オリンパスメディカルサイエンス販売、LSIメディアエンス、メディセオ、三井情報、ヤマトシステム開発、SOMPOケア、朝日生命保険、明治安田生命、武蔵野銀行、山崎製パン、伊藤園、アシックス商事、JR東日本スポーツ、セブンイレブン・ジャパン、読売新聞、三菱地所レジデンス、JR中央ラインモール、ANAセールス、JALスカイ、マイナビ など
医療福祉機関	埼玉県社会福祉事業団、済生会川口総合病院、さいたま赤十字病院、医療生協さいたま など
大学院進学	筑波大学大学院、東京工業大学大学院、東京大学大学院、一橋大学大学院 など

## 埼玉県立大学同窓会

昨年初めての出店にして、大好評だった模擬店を今年も開店します。一緒にお店を運営してくれる方、募集中です!!

### 今年も清透祭に出店します!!

同窓会SNSで  
情報発信  
しています



### 県大グッズを作成しました!!



あらゆる大学イベントで数量限定で販売しています。見つけた方は是非ご購入ください。県大愛に溢れるグッズでいつも身近に県大を!!

同窓会に関するお問い合わせはこちらから [dosokai@spu.ac.jp](mailto:dosokai@spu.ac.jp)